

## 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

別紙2

(本市の「要緊急安全確認大規模建築物」で用いられた国土交通省告示(平成18年第184号)において定められている耐震診断の方法の名称、構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評安全性の区分)

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の区分		
	I	II	III
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1990年版)	Is/Iso<0.5 又は CT・SD<0.15	左右以外の場合	1.0≤Is/Isoかつ 0.3≤CT・SD ≤1.25
			1.25<CT・SD
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso<0.5 又は CTU・SD<0.15・Z・G・U	左右以外の場合	1.0≤Is/Isoかつ 0.3・Z・G・U≤ CTU・SD
「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	Is<0.3 又は q<0.5	左右以外の場合	0.7≤Is かつ 1.0≤q

- I 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- II 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- III 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

(※)震度6強から7程度の大規模地震に対する安全性を示す。  
いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生じるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされている。

### 記号の説明

記号	名称	説明
Is	構造耐震指標	・個々の既存建物が保有する耐震性能を数値で表した指標 ・構造図面やコンクリート強度試験結果等をもとに、建物が保有する「強度」と「粘り強さ」、「建物形状のバランス」、「経年劣化」をそれぞれ評価して、構造計算により算定する ・個々の建設年や構造計画等によって数値は変わる
Iso	構造耐震判定指標	・建物の耐震性能の有無を判定するための指標 ・全国基準では鉄筋コンクリート造や鉄骨造は一般的に0.6(一部0.7)
CT・SD CTU・SD	累積強度指標(CT) 終局限界における累積強度指標(CTU) 形状指標(SD)	・鉄筋コンクリート造の建物に一定の「強度(堅さ)」を確保するための指標 ・建物の「粘り強さ」を過剰に評価すると(地震時の倒壊は免れても)外装材の脱落等を生じる危険性が大きくなるため、それを防止するために、一定の「強度(堅さ)」を確保
q	保有水平耐力に係わる指標	・鉄骨造の建物に一定の「強度(堅さ)」を確保するための指標